

令和6年度第2回印西市廃棄物減量等推進審議会会議録

- 1 開催日時 令和7年3月24日（月） 14時00分から15時40分まで
- 2 開催場所 印西市役所 3階 大会議室
- 3 出席委員 小熊委員、遠藤委員、吉村委員、角鹿委員、白石委員、赤荻委員
- 4 出席職員 伊藤環境経済部長、根本クリーン推進課長、関推進係長、吉野主査
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 事 議事

（1）第3次印西市ごみ減量計画の施策の進捗について

- 7 配付資料
  - ・ 次第
  - ・ 前年度との月別比較（資料1）
  - ・ 第3次印西市ごみ減量計画の施策の進捗について（資料2）
  - ・ 製品プラスチックの資源回収の開始について（資料3）
- 8 会議概要 （1）資料1、資料2及び資料3に基づき説明を行い、意見等をいただいた。
- 9 審議経過

議長 それでは、議題（1）第3次印西市ごみ減量計画の施策の進捗について、事務局より説明をお願いします。

事務局 （資料1について説明）

議長 今説明がありました資料1について、ご意見ご質問等ありましたらお願いします。  
それでは、私の方から1つ。5ページの事業系ごみの結果ですが、下半期以降少なくなっているのは、説明にもありましたようにごみ処理手数料の値上げが影響しているのでしょうか。

事務局 一概にその影響によるものとは言えないと思いますが、要因の1つにはなっているのではないかと考えております。

他にも各事業者による資源化の推進やコスト管理等の中で処理方法を検討されたなど、複数の要因によるものと思います。

委員 4ページ目の家庭系資源物の原単位についてですが、これは具体的にどのようなものの合計量となっているのでしょうか。

事務局 通常資源物として収集しております、ビン、カン、紙、布、ペットボトル、プラスチック製容器包装、スプレー缶と、拠点回収を行っております廃食油、使用済小型家電、各団体による有価物回収によるものの合計量となっております。

委員 家庭で余りつつあるものもあると思うので、資源物としてリサイクルされているものがわかると、皆さんいろいろ出せるのかなと思いました。

議長 印西市の資源回収で、一番回収されているものは古紙で、紙類、段ボール、新聞紙などになっています。あと雑紙も回収されています。

他にカン類やビン類など、それらもみんな資源になります。また今説明にありました廃食油、小型家電なども対象となっています。

それ以外のものは、結果的には燃やすごみとして出させてもらっているというのが現実です。

委員 家電ですと、昔のものが古くなっていきますよね。

例えばビデオは、もう捨てるを得ないと思うのですが、そうした機器は、ごみとして引き取っていただけるのでしょうか。

議長 ビデオデッキは小型家電として資源回収になります。大きいものも分解して資源化されているものもあります。

事務局 今議長から説明があった通り、家電につきましては小型家電回収ボックスを市役所、公民館、支所などに設置しておりますので、小型家電を廃棄される場合には、ごみの減量化、資源化のため、ぜひそちらをご利用いただければと思います。

委員 今のことに関連して、うちの町内会ですと、例えばパイプ椅子とか、テントの支柱の鉄パイプなども、業者さんをお願いして有価物回収していただけてます。

他にも金属部分が多いもの、フライパンとかも回収してくれます。

議長 金属物も資源化されていますものね。

それでは続いて、資料2 アクション1の説明をお願いします。

事務局 (資料2 アクション1について説明)

議長 アクション1について、ご意見等はございますか。

委員 フードロスの問題はすごく大事で、市民としては分別等をしてはいますが、もうそれでは追いつかなくて、より上流の排出する方のごみをいかに減らすかがすごく大事だと思います。

削減協力店を始めてもう二、三年経つと思いますが、協力店にアンケートとかはその後取られたりしているのでしょうか。

なぜかという、ちばSDGsパートナー登録制度の方を見たのですが、千葉県で登録したら目標設定をして、その後アンケートなどにより、そのあとのフォローが入っていました。

協力店の中には大手の事業者さんと、個人事業主の飲食店さんが一緒に出ていましたが、おそらく大手の事業者さんに比べ、個人商店などが取り組むときには寄り添うとか、そういうことが市としては大事なのではないかと思います。

東京都の方の例ですが、フードロスの協力店に対して補助金を出すようなことまで踏み込んで都がやっていたので、例えば飲食店がコンポストなどを購入する際に半額を助成するなども考えられるのかなと思います。事業を始めて3年目、4年目ぐらいで、それぞれ個人事業主さんがどういうことで苦労して、どういうことが必要のかなどを把握して、成果につなげることができるのではないかと思います。

あとは皆さんフードロスに取り組まれて、どうだったかを知りたいなという、どのくらい削減に繋がってるのか知りたいなと思いました。

事務局 アンケートにつきましては、現場のご意見等をうかがう機会でもありますので、今後の事業の参考とさせていただきたいと思います。

委員 あと、登録のための取り組みが8つ挙げられていて、その他である程度広くいろいろな取り組みが認められることがわかったのですが、印西市らしいという意味では、例えば野菜を作っていらっしゃる人がいるから、規格外野菜を利用するとか、そういうことも促進してもいいと思うので項目に挙げるとわかりやすいのではないかと思います。今はその他に含まれるのではないかと思います。

事務局 はい。その他の項目としまして、そうした取り組みも該当いたします。

議長 他にありますか。

事務局 それでは続いて、資料2 アクション2の説明をお願いします。

議長 (資料2 アクション2、資料3について説明)

議長 ご意見等ございますか。

事務局 それでは、私の方から。2-2の有価物集団回収のところで、1期目が93団体、2期目が89団体とあり、4団体ほど減っていますが、どのような団体なのかなどはわかりますか。

事務局 有価物の集団回収の取り組みにつきましては、市では1期、2期、3期というように年3回に分けて実施しております。年3回すべて行っている団体と、1期と3期のみのように、年2回行っている団体などがありますので、その差分と考えております。

委員 1月に初めて小学校へのごみの減量化の授業に参加させていただきました。

事務局 市内の小学校で、大きな学校でしたので3回に分けて、減量化説明会を行いました。

委員 小学校4年生でこういった内容を学習するということですが、これは市が呼びかけて、そして学校からそのオファーというか要望があつてやることなのか、それともそういったことは一切なく、リクエストが上がってくるのを待っている状態で、こういったことを行なっているのか伺いたいのですが。

事務局 市から各学校にごみ減量化説明会のご案内をしております、それに対して実施のご要望をいただいた形となります。

委員 小学4年生では必ずこの学習をするということを聞いたので、大人もそうですが、お子さんがしっかりごみのことについて把握されるといいのかなということをその時すごく実感しました。授業では、小グループに分かれて、お話し合いをして、これが何のごみ、あれが何のごみというように行いました。家庭では大体、大人の方がごみ出しに行くと思うのですが、こうした学習を通して関心を持っていただいて、育っていったら、外で何かペットボトルを買ったときでも、いろいろと考えたりするんじゃないかなと思うので、実施回数が増えるといいなと思います。

事務局 ありがとうございます。

議長 市といたしましても、今まさに委員がおっしゃった通り学校でごみについて学んでいただく機会は、非常に意義のあるものだと思っており、今年度実施できたことは非常によかったなと考えております。

議長 今後も、他の学校でも行っていただけるように、市から発信してまいります。

委員 今のお話など校長会などでは話題にできませんか。

事務局 こちらの資料にもありますが、学校としては4年生の施設見学として、クリーンセンターの見学に行くことが多いです。その際の実施となると、ここにもあるように時間の制約があつてお互いに難しい。この時間の制約が一番ネックなのですが、ただそうは言ってもごみに関する事柄は今後の死活問題でもありますので、校長会の方でも、これはぜひやりたいよねという話ができるかと思っておりますので伝えておきます。確約まではここではできませんが。

事務局 よろしく願いいたします。

議長 クリーンアドバイザーの方などが、講師として来てくれますので、ぜひ利用して  
いただきたいと思います。

その他はいかがでしょう。

委員 資料3についてですが、リサイクル施設の見学に行って、どのように分別される  
かという、結局みんな手選別されていました。

電池もそうですけれども、結局みんな手で行っていて、プラスチックに関しては、  
資源になるのは綺麗なプラスチックのみだと言われていて、あらためてそうだと  
学びました。また、とにかく異物が混入してしまっていたり、汚れていたりすると資  
源化が難しいと係の方がおっしゃっていました。

これからは普通のプラごみが容器包装と一緒に入ってくるということで、また手  
選別になるのでしょうか。

事務局 機械による部分もありますが、手選別も行われるものと思います。

委員 そうしますともっと大変になりますね。今まで以上に。業者さんすごいと思い  
ます。

市としては燃やすごみが減ることでメリットはあると思うのですが、でも  
プラごみの廃棄そのものが日本全体で行き詰まっていると感じます。

燃やせばいいとは思ってたんですけども、燃やす処理というのもCO<sub>2</sub>が出  
るので問題となっていて、また一部は海外へ輸出するなどにより成り立っている  
ところがあると思います。選別も、業者さんがやってくれるので成り立っています  
ので、そのあたりを非常に懸念しています。

事務局 業者さんによって手選別が行われていますが、しっかり分別して出していただく  
ことでその手間も軽減されますので、市もいろいろな媒体で周知してまいりたいと  
考えております。

委員 出せるもの、出せないものを具体例として細かく案内していただきたいと思います  
です。

事務局 イラストを用いて紹介するなど、今検討しているところになります。

4月1日号の広報を皮切りに、各媒体で周知を行ってまいりますので、それら  
をご覧になっていただき、またご意見をいただければと思います。

委員 関連したものになりますが、プラスチックごみにもいろいろあると思うのです  
が、例えばマヨネーズの空き容器やケチャップの容器などがあると思うのですが、  
ああいうものや汚れがついていたであろうものは、水洗して出せば回収される対象  
になるのでしょうか。

事務局 中身が入っていたものと、中に付着しているものがありますので、お話のと  
おり、すすいでいただき、お出しいただければ資源物として回収されます。

委員 動画で説明しているものがありますが、あれすごいですよね、洗うところまで  
説明されていて。納豆の容器の洗い方もあって、簡単に落ちるんだと参考になりま  
したし、役に立ちました。

議長 資料で製品プラスチックの一部という形で書いてある通りで、今までは燃やすご  
みで出してください、容器包装でないものは駄目ですよという概念で大きく分けて  
いました。

今度は製品であってもプラスチックのみで出来ているものならば、大丈夫ですよという形の仕分けになります。この例で書いてあるように、例えばバケツであったり、ハンガーだったり、そうしたプラスチックだけで出来ているものならば出せるようになります。先ほど話が出ましたが、残念ながら、プラスチックにも様々な種類があり、その種類が一定のものを集めないと、再生は難しいのが現実です。

日本の場合は、それらを熱回収にまわしたり、油にしたり、燃料にしたりとか、そうした作業で何とか対応しているような状況です。

一番製品として再利用しやすいっていうのは、スーパーの入口で回収してくれているトレイ類。あれは製品の分子構造が一定ですので、そのもので再生が出来るものになっています。

それ以外のものは混合してしまいますと、ペレットになったり、溶かして使ったり、色々な形でしか使えないのが現実なのですが、燃料化してやっていこうという姿勢なんですよ。もちろん熱回収もされていますが。

資源回収としては、50cmという制限があるので、それを超えるような大きいものは基本的にはもう粗大ごみで出すしかないのですね。

事務局      やはり基準は設けてますので、それ以上の大きさのものは粗大ごみとして出していただくことになります。

議長          運搬するときの問題なども絡んできますしね。

例えば大きいものの場合、切ったりすることで小さくできればいかがですか。

事務局      極論になりますが、小さくできたものであれば、資源物として回収できます。

議長          プラスチックは切るの大変ですけども、可能ということですね。

委員          すいません。なぜ50cmが基準なのでしょう。

事務局      クリーンセンターの方で、国の基準と合わせた形で設定しています。また、指定袋に入る大きさであることも考慮されています。

議長          最初は間違ったものも入れられてしまう可能性もあると思いますが。

事務局      周知につきましてはスケジュールを立てて、資源物の回収について徐々に浸透し、分別方法が行き届くよう、粘り強く行ってまいりたいと思います。

委員          このリサイクルの中で、農家さんとかですと、パレットなど大量に出ることがあると思うのですが、そういうのは個別に回収するってことも考えられているのでしょうか。

事務局      農家さんから出るごみにつきましては、事業系の廃棄物ということで、家庭から出た廃棄物とはまた別の扱いになります。

今お話のありましたプラスチック系、ビニール系につきましては、今詳しいものはないのですが、ビニール系に関しては、廃プラの協議会というものがあまして、そこで年に何回か集めて、リサイクルをしております。プラスチック類全般ではなく、品目については限られていると思いますが、ただその品目にはないものについては、事業系ごみとして許可を持った事業所で、ごみの処分をしている状況になります。

委員          農業系で出た廃棄物は集積所には出してはいけないことになっているかと思いますが。

事務局 はい。基本的には赤い紙を貼って、周知期間を設けて、排出者に持ち帰ってもらうようにしていますが、集積所のごみ出しに支障がある場合もありますので、その辺りはいろいろと状況に応じて対応させていただいております。

委員 ぜひ指導の方をしっかりとしてくださるようお願いします。

議長 他にはございますか。

事務局 それでは続いて、資料2 アクション3の説明をお願いします。

議長 (資料2 アクション3について説明)

委員 ご意見などはございますか。

事務局 新しく作られたブンベツ君の動画パート2を見ました。

委員 2択になってトントンって見やすくなってよかったと思います。外国籍の方も、ああいった内容ですとわかりやすいのかなという感じがするので、例えば動画に英語を入れるなどの工夫をしていただくと、より外国籍の方も動画で理解が進むのではないかと思います。

委員 また、特に充電池に関してはすごい重大なことで、市のホームページでも処分方法などがこれまでに発信されています。とてもわかりやすい説明でしたので、例えばもうこれがすでに1つ作られているわけなので、「さんあーる」の中に項目を作ってここに飛べるようにするととても助かるのではないかと思います。皆さん捨て方には困っているところもあると思うので。

委員 「さんあーる」のインフォメーションでお知らせされていますが、すごい重大なことなのでメニューの中に充電池の処分方法の項目を設定してもいいのではないかと思います。

事務局 技術的に可能かというのはありますが、検討させていただきます。

委員 細かい説明じゃなくて、簡単な内容だけポンポンって紹介するだけでも違うと思います。そうだったのかって気付かれる方もいらっしゃると思います。

事務局 今度新しく作る際には、そうした点を相談してみてください。

委員 参考にさせていただきます。

事務局 児童生徒への配布物ですが、前回審議会でも提案されて、クリアファイルの配布になられたということで、個人的にはクリアファイルでしたら捨てられる可能性は少なくなったのかなと思いましたが、やはりクリアファイルも捨てられていくものではないかなと思います。

委員 例えば企業の中には、クリアファイルを全部紙製に切り換えたところもあります。

事務局 プラスチックを削減しようという流れでもありますので、ちょっと問題提起させていただきたいと思います。

委員 プラスチックにつきましては、削減に向けた方向性は確かにございます。

委員 また、今回クリアファイルに変えたのは、プラスチック製ではありますがけれども、同時に先ほどお話にも挙がっておりました「さんあーる」を、より多くの方にご紹介をしてダウンロードしていただきたいと考え、分別をしっかりと行っていただくようご案内するための1つのツールとして、クリアファイル今回やらせていただいたものになります。

委員 予算などの制約がある中ではありますが、有効なものを行なってまいりたいと考

えております。

委員       うちの子供が小さいころ博物館に行ったときに恐竜のクリアファイルを買ってきて、まだそれを使っている、今度はそれを自分の子供に見せていて、つまり孫が今それを見てるんですね。

内容が面白ければ、それをずっと持っててもらえる。もう20何年前のものですが、全然それはもうごみではなくて、知識として伝授していつていますので、クリアファイルもそのものがよければ、とてもいいものではないかなと思います。

事務局       ありがとうございます。そのように使っていただけるよう努めてまいります。

また、今回のクリアファイルの狙いの1つに、お子さんが家に持って帰ったときに、親御さんがみて、活用していただけると、非常に裾野が広がるのかなということも考えて、作成させていただいたところもあります。

委員       QRコードをつけたものだったと思いますが、配る際には利用いただくよう一言添えていただくとよりいいと思います。

委員       QRコードの話が出たので、リチウムイオン電池の分別の仕方などについてですが、リチウム電池を使ってる製品にはすべて処分方法などを案内するQRコードのシールを貼るようにするなどを、国に定めてもらえるといいなと思います。

というのも子供の持っているおもちゃなどは、小さいものでも充電池が入っているんですよね。リチウム電池が使われていると意識していない方も多いと思うのです。

だからそういうシールが貼ってあれば、処理の仕方などがわかるのではないかと思います。そういった方法もあるのかなと。

議長       ある会合の中ではそういう意見が出ています。

電動だから電池で使っているんだなっていうのはわかるんですが、周りがプラスチックのためそれより先が見えないため、電池が使われているという表示の仕方について、提言しています。

他にございますか。

それでは議事につきましては、これで終了といたします。

令和6年度第2回印西市廃棄物減量等推進審議会の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和7年4月30日

印西市廃棄物減量等推進審議会

委員   吉   村       仁

委員   遠   藤   康   子